



国民の森林・国有林

綾の照葉樹林プロジェクト 復元に向けボランティア25人が 間伐作業を行う

綾の照葉樹林プロジェクトでは、平成17年(2005年)の協定締結以降、照葉樹林への復元を図ることを目的として、一般企業や学生、NPO、綾町民など一般の方々のご協力をいただきながら、ボランティアによる間伐作業を行っています。

今年度は、2月21日に宮崎県小林市の柚園国有林において第

1回目の間伐作業を実施し、ボランティアとして大和ハウス工業株式会社社員及び一般の方25人に参加いただき、スタッフと合わせて45人で間伐作業を行いました。

当日早朝、ボランティアの方々は車4台に分乗して作業箇所近くの綾南林道まで移動し、先行したスタッフと合流後開会式を行いました。開会式



ボランティア間伐を行った皆さんで記念撮影

では主催者を代表して九州森林管理局山崎準計画課長が挨拶、その後事業説明や安全指導などが行われた後、5班に分かれて作業箇所まで移動しました。作業箇所では、各班毎に再度宮崎森林管理署の職員から、作業時の周囲の安全確認、退避行動などについて安全指導が行われ、いよいよ作業に取りかかり、参加者はスギの木の伐倒や伐倒木の玉切り

枝打ち作業に汗を流しました。参加者の中には、以前にもこの作業に参加され鋸の使い方に慣れた人もいましたが、ほとんどの人は初めての作業で、鋸を使った受け口・追い口切りに悪戦苦闘する姿が見られました。伐倒作業では、木が目標とした方向へ倒れると、見守っていた人達から歓声と拍手が沸き起こるなど、緊張の中にも和やかな雰囲気で作業は行われました。作業は2時間程度で終了し、閉会式では宮崎森林管理署の下村治雄森林技術指導官が作業の



伐倒作業の様子



力を合わせて伐倒



安全確認、伐倒始め



枝打ち、玉切りの模様

お礼と今後の協力について挨拶を行い、参加者にはケガもなく無事全日程を終了することができました。今回の作業は、一般の方が参加して照葉樹林復元への取組を体感できる貴重なイベントとなっています。綾の照葉樹林プロジェクトでは、今後も引き続き一般の方に森づくりの大切さを体験していただけるイベントを企画し、ボランティアの皆様のご協力をいただきながら、照葉樹林の復元に取組んでいくこととしています。

(担当: 山崎準)

平成30年度 第3回

保護林管理委員会を開催する

2月18日、第3回九州森林管理局保護林管理委員会を開催しました。冒頭、原田隆行九州森林管理局長より、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産については、推薦書を2月1日にユネスコに再提出した。やんばる森林生態系保護地域の保全管理計画についても、策定次第追加で提出することとしている。本日、保護林モニタリング調査結果を報告する

が、最大の課題はシカによる食害である。委員の皆様のご意見を踏まえながら、何ができるのかを考えていきたいので、よろしくお願ひする。」と挨拶がありました。

その後、事務局から「やんばる森林生態系保護地域の森林基礎調査の結果報告について」「やんばる森林生態系保護地域保全管理計画案について」「平成30年度保護林モニタリング調査の



保護林管理委員会の模様

の評価について」「平成31年度保護林モニタリング調査箇所及び調査項目の検討について」等の説明を行いました。

「やんばる森林生態系保護地域の森林基礎調査の結果報告については、委員から「外来植物の調査は、保護林内の林道や県道なども含めた方が望ましい」「希少種等の密猟防止対策の継

続が重要」などの意見が出されました。これらの意見を踏まえ、来年度以降のモニタリング調査の際、対応可能なものを調査項目に加えることとし、了承されました。

やんばる森林生態系保護地域保全管理計画案については、委員から「『渓流帯』の記述は『渓流環境』の方がいいのではないか」「渓流環境には、トンボ類をはじめとする重要な昆虫類があるので記述してほしいか」などの意見が出され、修正案を委員長一任として了承されました。

平成30年度保護林モニタリング調査の評価については、委員から「特に保護・管理対策が重要であり、シカ対策を含めた考え方を整理しておく必要がある」「モニタリング調査の間隔は一律5年とせず、シカ被害や管理のあり方も踏まえて設定すること」などの意見が出され、来年



意見を述べる各委員

度の1回目目の保護林管理委員会において、これらの意見を踏まえた管理方針書の改訂案を提示することとなりました。

平成31年度保護林モニタリング調査箇所及び調査項目の検討については、委員から「クマタカ、コシジロヤマドリ、ヤマネコ、ゴイシツバメシジミ等の希少動物の生息状況の評価は短い期間など限られた条件下では困難ではないか」「着生植物や菌従属性植物等の希少種も調査対象としてほしい」などの意見が出され、希少動物の生息状況は他事業のデータや関係機関の資料等で補完すること、着生植物や菌従属性植物等の希少種を調査対象にするかは今後検討することとし、了承されました。

その他、奄美群島及び西表島森林生態系保護地域保全管理計画の改正案の説明・了承、九州森林管理局管内のシカ被害の現状と対応状況及び屋久島森林生態系保護地域におけるモニタリング調査の内容等の説明を行いました。

九州森林管理局では、いただいた意見を踏まえ、保護林の保全管理に引き続き取り組んでいくこととしています。

※本管理委員会の審議概要は、九州森林管理局HP（キーワード：保護林管理委員会）でご覧いただけます。（担当：計画課）

自動植栽機による造林作業の実演会に参加する

【宮崎南部森林管理署】1月18日、宮崎県の山会議主催で自動植栽機の実演会が、当署管内の三ツ岩国有林91ら林小班で開催されました。実演会には当署をはじめ、宮崎県、日南市、串間市や林業事業体から約30名が参加しました。

今回使用された自動植栽機は、刈払機を改良し刃先で林地を耕す方法で穴掘を行い、苗木を半自動で落とす仕組みであり、一人で植栽作業を行えるものでした。



自動植栽機

実演会では、会社からの説明を受けた後、それぞれが交互に試運転を行いながら感触を確認しました。

当該機は試作段階であり、今

日の現地検討会により、岩石・蔓の処理及び振動など更に改良を重ねて行くための問題点の検証が出来ました。



自動植栽機の実演

今後も、宮崎県等とも連携し林業の機械化への新たな取組みの推進のため積極的にフィールド提供を行っていきます。

宮崎港小学校の5年生を対象に森林教室を開催する

【宮崎森林管理署】1月28日、宮崎市立宮崎港小学校の5年生を対象に、憶振興会と合同で「森林教室」を開催しました。手作りの「森林クイズ」で森林の役割や林業の仕組み等について学んだ後、「丸太切り」や「もっくん制作」に挑戦しました。

児童達は真剣な眼差しで森林クイズに挑み、元気よくたくさ

んの手が挙がるなど盛り上がりを見せました。木工体験では終了時間ギリギリまで作業に熱中し「まだ木工体験をしたい」等の声があがるほどでした。



もっくん作って喜ぶ児童



初めての丸太切りに挑戦

この森林教室を通して、木材をより身近に感じ、森林の大切さについて考えてもらうことのできた一日となりました。

宮崎日日新聞社日南支社長より広報について伝授

【宮崎南部森林管理署】これまで、当署の各種取組をPRするために広報活動に取り組んでい

るところですが、より効果的な広報活動を学ぶために宮崎日日新聞社日南支社長の俣野秀幸氏に講演をいただきました。

講演では、原稿を書くに当たり、一番伝えたいことはリード（冒頭の2〜4行で記事のポイントとなる部分）に書き、読めば概要が分かる内容にすること、専門用語は避けること、タイトルは一目で内容が分かるようにすること、プレスリリースする場合には見ただけで記事が書ける程度の内容を書いておくことなどを学びました。



熱心に受講する職員

今回の講演を踏まえてより分かりやすく、効果的な広報活動に努めていく考えです。

高原町とシカ被害対策協定を締結する

【宮崎森林管理署都城支署】2月5日、宮崎県高原町役場にお

て、高原町長、高原町有害鳥獣捕獲対策協議会長、当支署長の三者で、町内の国有林及びその周辺の民有地内のシカ被害対策推進のため協力体制を構築し、農業被害及び生態系被害の防止を図ることを目的として、「シカ被害対策協定」を締結しました。



調印式を終えた三者方

調印後、高妻経信高原町長から「高原町では、シカによる農林業被害は依然として甚大なものがある。今後も、より一層の被害防止に向け、国有林や猟友会と三者が協力し、緊密に連携していくことで、国有林と周辺農地等の保全に大きく寄与するものと期待している。」と挨拶がありました。

前杉成美都城支署長からは、「造林木や下層植生の食害により、山が裸地化し水源の枯渇や山地崩壊など、地域住民の安心・

安全な生活に不安が生じることをなどを心配している。平成29年度締結させて頂いた「地域の安心安全協定」も活用しながら、このシカ協定が成果のあるものとなるよう協力していきたい」と挨拶し調印式を終了しました。当支署においては、シカ被害の軽減に向けて、地元の協力を得つつ取り組みを進めているところであり、今回の協定で、えびの市、小林市につづき3回目の締結となりましたが、今後もより効果的な捕獲となるよう、三市町と連携・支援を強化し、取り組んでいくこととしています。

日向市地域におけるシカ被害対策協定を締結する

【宮崎北部森林管理署】2月5日、日向市役所において、宮崎北部森林管理署、日向市及び日向市有害鳥獣捕獲班（東郷1班、6班、7班）の関係者が出席し、シカによる日向市の農林作物等への被害を防止するために5者によるシカ被害対策協定を締結しました。

調印式後、黒木慶次郎宮崎北部森林管理署長から今回の協定締結の意義とお礼の挨拶があり、十屋幸平日向市長からは、日向市は農林業が主の街であり、シカ被害は日向市においても深刻

な問題であり、今回の協定を機に官民一体となりシカ被害対策に取り組んでいきたいと挨拶がありました。また、東郷有害鳥獣捕獲班東郷1班班長より、シカ駆除に対する意気込みと、協定に関するお礼がありました。



調印式を終えた五者方

宮崎北部森林管理署管内では、今回の協定で6協定目であり宮崎県北部はもとより宮崎県の農業被害や生態系被害の防止のために関係市町村等と連携しシカ被害対策を進めていきます。

「伐採・搬出・再造林ガイドライン」サミット「鹿児島」が開催される

【鹿児島森林管理署】2月6日、鹿児島市内のホテルにおいて、鹿児島県森林組合連合会と鹿児島県素材生産連絡協議会主催による「伐採・搬出・再造林ガイドラインサミット・イン鹿児島」

が開催され、九州のほか東北、北海道から林業団体関係者など約200名が参加しました。

このサミットは、木材生産が間伐から主伐へと変わりつつあるなかで、皆伐後の再造林がなされない森林が散見され、地域の大きな懸念となっている現状を踏まえて、皆伐時に守るべき考え方や手順を鹿児島県内の森林組合と民間林業事業者が一体となって『責任ある素材生産事業のための行動規範』と『伐採・搬出・再造林ガイドライン』に取りまとめ、環境に配慮し活動する事業体を認証する制度（CRL認証）を制定し、この制度を全国に普及していくことを目的として開催されました。

鹿児島県CRL認証事務局からは「鹿児島県の再造林率は45割、他県では70割を超えている県もあるので、ガイドラインの制定によってこの数字を上げていきたい。」また、CRL認証委員会委員長からは「森林所有者に取り組みが広がっていくことで、CRL認証の効果や意識が変わっていくことを期待する。」などの説明がありました。

パネルディスカッションでは、「ガイドライン作成にあたっては、国や県と議論し、森林組合や現場の意見を取り入れたことにより現時点では最高のものだった」という意見があり、こ

の認証制度を全国に普及させ森林環境の保全に努めることで国民・地域社会の暮らしに貢献するものと期待しているとのことでした。



パネルディスカッションの様相

サミットの様子は、地元テレビのニュースや新聞等で報じられ、注目度の高いイベントとなりました。

有害鳥獣捕獲とくくり罠の勉強会を開く

【宮崎南部森林管理署】2月13日、日南市白木保国有林で有害鳥獣捕獲の熟練者である大分西部森林管理署の木村圭文地域技術官外3名を講師としてシカくくり罠設置の勉強会を行いました。

当署管内では、シカ被害はありませんが、近年自動カメラで



くくり罠の準備をする木村地域技術官

の撮影や目撃情報が寄せられ、30年度から職員によるくくり罠の設置を始めたところです。

今回、くくり罠については、笠松式を使用しましたが、効果的な捕獲のためのワイヤーの長さの調整、落とし蓋へのバネ設置、隙間の調整などの工夫している点や設置時の注意点などを詳しく教えていただき、参加者は熱心に聞き入っていました。

今後、南那珂地域の広大な主伐・再造林地のシカ被害を未然に防止するため、効果的な罠の設置に取り組んでいきます。

山都町において第4回愛林駅伝競争大会が開催される

【熊本森林管理署】2月16日、山都町、山都町教育委員会、緑川森林組合、熊本森林管理署主催による愛林駅伝競争大会が、

今年も熊本県山都町において開催されました。

当駅伝は、青少年に自然愛護の心を育て、緑豊かなふるさとづくりへの意識の高揚をはかることを目的に昭和31年に始まり、今回で64回を数えます。山都町をはじめ近隣の3中学校の総勢11チームが参加し、矢部地区中心部を巡回する5区間14・3キロで競争が繰り広げられました。



駅伝スタートの様相

当日は生憎の曇り空でしたが時折晴れ間も見え、冬空の下で沿道から温かい声援を受けながら白熱した大会となり、みごと「益城A」チームが優勝しました。

2月期のゼロ災害月間 安全勉強会を開催する

【大分森林管理署】2月20日、平成30年度第4四半期安全勉強会を担当する当署各森林事務所



緊急時に備えて応急担架による救助

所属職員が講師となり、豊後大野市朝地の綿田三宅山国有林2054林班内において職員29名が参加して開催しました。
はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から「本日は、全国で24件発生（平成31年1月末現在）している公務災害の内、7件の災害に起因する刃物による災害に焦点を当てて安全勉強会を実施します。刃物を扱う際の知識や技術を修得し、経験の積み重ねやシミュレーションを活かして類似災害の防止等、本日の安全勉強会を役立て欲しい。」と挨拶でスタートしました。
本日の講師役代表の、山本純也地域統括森林官から、安全勉強会の内容や進め方を説明したあと、各（首席）森林官、地域技術官、森林技術員から、刃物による災害事例をもとに発生時の状況を実演を交えてリアルに

再現し、体勢はよかったか等の意見を求めて分析を行いました。午後からは、緊急時に備えて現場で着衣とシートを使用した応急担架の作り方の実演、立木を伐倒する際の受け口、追い口、待避方法などの基準を学びました。

本日の安全勉強会で、「災害分析の中で出された意見」や「刃物の研ぎ方」、「伐倒の安全基準」を、監督業務や収穫調査時などに役立てることとします。

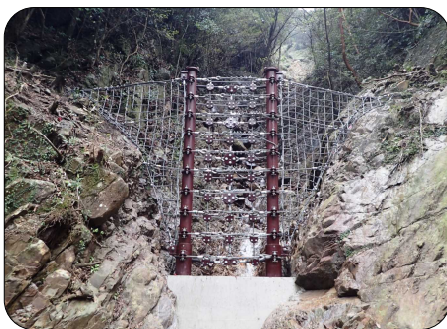
九州初となる杭式土留工（治山事業）が完成する

【屋久島森林管理署】近年、台風や集中豪雨などに起因して山腹崩壊地等が発生し、土石流を引き起こした結果、保全対象である人家等押し潰す災害が増加しています。ここ屋久島でも平成29年9月の集中豪雨の影響を受けて、平成26年6月に紅葉岳国有林246林班内で発生していた山腹崩壊地が拡大崩壊し、地元のライフラインである水道施設及び林道に被害をもたらしました。

これを受けて当署で検討した結果、本来であれば発生源である山腹崩壊地を山腹工事で施工すれば不安定土砂の移動は抑えられますが、この崩壊地は山腹

上部のため施工が困難であることや傾斜が急峻で豪雨時などに落石が発生することから、計画段階よりいかに不安定土砂を抑えられるかを検討した結果、他事業も含めて九州では初めてとなる落石防護工の杭式土留工を採用し、受注した日正建設（株）が施工を行いこの度完成しました。

この杭式土留工は、コンクリート土留工と比べると施工性が良く短期間で完成する利点があるとともに、当現場は落石を防護することを目的にしていることから透過性も優れた工法となっており、実際に短期間で完成した杭式土留工は頑丈でいかなる落石も抑えてくれることが期待されます。



完成した杭式土留工

当署としては、今回の杭式土留工が九州では初めての取組となったことから、今後の経過を

観察しながら検証を行い、雨が多く傾斜も急峻で岩石の多い屋久島に適した工法として他の災害箇所でも採用していきたいと考えています。

「森のセミナー」を開催する

【熊本南部森林管理署】2月23日、地域住民22名が参加し本年度3回目の「森のセミナー」（当署主催、球磨地域振興局共催）を当署会議室において開催しました。

講師には環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、「玄年にまつわる草木話」と題して講話があり、身近な植物で「キブシ」は爪楊枝の材料



乙益氏による講話の様子

「ニワトコ」の葉は便秘に効く等草木と生活にまつわるエピソードやユーモアを交えた話を参加者は興味深く聞き入っていました。

また、工藤孝熊本南部森林管理署長よりシカ被害による下層植生の消滅、生物多様性や森林の公益的機能への影響等について説明しました。

その後、タムムシ、オオムラサキ等貴重な昆虫の写真を台紙にした「しおり作り」、水苔を丸めてモミジイワオモダカ、アマメシダの苗を植えた「コケ玉作り」に挑戦しました。



コケ玉作りの模様

コケ玉作りでは、悪戦苦闘しながらも参加者の想いがこもった大小様々な個性的な作品ができあがり楽しい一日となりました。

「不法投棄は許さない」 不法投棄合同パトロールを実施する

【宮崎南部森林管理署】2月22日に日南市北郷町の北郷まちづくり協議会主催による不法投棄合同パトロールを実施しました。参加者は、地元自治会、日南



エアコン回収作業の様様

市、当署職員13名で日南市北郷町の国有林林道及び市道の総延長50キロメートルを実施しました。同協議会では、例年この時期に不法投棄防止の啓発活動を行っており、今年もテレビ8台、洗濯機3台、エアコン1台など軽トラック3台分のゴミを回収しました。

今後とも地域の皆さんと協力して国有林を含めた地域の美化活動に取り組んでいきます。

「霧島山の植樹活動」を 開催する

【鹿児島森林管理署】2月23日、当署、食とみどり・水を守る県民の会が主催して、霧島市牧園町萬膳国有林において、植樹活動を実施しました。この植樹活動は、平成19年から実施しており、今年で13回目の開催となりました。



植樹活動に参加された皆さん

当日は天候にも恵まれ、食とみどり・水を守る鹿児島県民の会から約100名が参加しました。植樹活動では、当署職員による植付方法の説明後、イロハモミジ、イチヨウ、クヌギの3種類500本を植えました。寒い中での手作業でしたが、1本

1本丁寧に、また、和気あいあいと作業が進められ、約1時間ほどで植付することが出来ました。

植付後は、大霧発電所に移動し、豚汁と鶏おこわをいただき、帰路に着きました。来年も県民参加の森林づくり活動の一環として継続していきます。

熊毛地域労働者福祉協議会に 屋久島の林業を説明する

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】2月24日、熊毛地域労働者福祉協議会からの要請に応じて協議会員31人を受け入れて、保全センターの奥村克生生態系管理指導官と当署の吉村浩一主任森林整備官、後藤一哉主任森林整備官、川野等森林整備官が案内しました。

当日は、小杉谷小中学校跡地において、小杉谷の歴史探訪と



屋久杉自然館にて歴史を学ぶ

言うことで周辺を案内する予定でしたが、あいにくの大雨となったことから屋久杉自然館において、平成17年に折れた縄文杉の枝や屋久杉の平木、土埋木の搬出状況のビデオ、昭和30年代頃の小杉谷の紹介ビデオなどを鑑賞して、屋久島の森林・林業や屋久杉の全体像に触れて頂きました。

続いて、安房貯木土場へ移動してヤクスギ土埋木について説明するとともに、森林管理署の会議室へ移動し、奥村指導官と後藤主任から屋久島の林業や小杉谷の歴史及びヤクスギ土埋木について説明を行いました。



土埋木を説明する奥村指導官

参加者からは、「大雨が残念でしたが、屋久島の林業の歴史について、大変勉強になった。来年も開催したいのでご協力をお願いしたい」等の感想をいただきました。

当署及び保全センターとして

は、今後とも外部からの現地調査等を積極的に受け入れて、国有林野事業に対する理解を深めてもらう取組を行っていく考えです。

「ゲースタディ現地検討会」 日南市森林整備計画樹立を支援する

【宮崎南部森林管理署】2月15日、日南市の富士国有林などで宮崎県、日南市、南那珂森林組合と当署職員14名で日南市森林整備計画樹立の支援活動の一環として、国有林の先進的な技術開発等を紹介するために、今年度2回目のゲースタディ地区現地検討会を開催しました。



林業専用道にて現地検討

始めに、当署と南那珂森林組合による森林整備協定区域である富士地区森林共同施業団地に出向き、林業専用道や主伐、間伐の進捗状況を確認し、間伐と

路網の配置等の必要性を検討しました。

次に、林分密度試験林において、密植と疎植の違いによる成長の違い、下層植生の繁茂状況及び自然枯死の状況を確認し間伐の重要性を再確認しました。

最後に、来年度の日南市森林整備計画樹立にむけて関係者が一致協力して行くことを確認しました。

南那珂の林業事業体と低コスト造林を学ぶ

【宮崎南部森林管理署】2月25日に次世代造林プロジェクトとして設定してある人吉市の低コストモデル実証試験地を南那珂地域の林業事業体と視察しました。

当日は、管内の民有林、国有林を含めた造林事業を担っている

る(有)金川木材、南那珂森林組合ら総勢17名が参加し、森林技術・支援センターの山下義治所長、釜稜森林技術普及専門官、永井純一技官から、大苗・中苗の植栽、下刈りの省力化、成長等が優れた親同士を掛け合わせ得られた実生苗の植栽、低密度植栽、早生樹の植栽など多岐に渡る実証試験地の状況を丁寧に説明していただきました。



実証試験地を説明する山下所長

力被害の防止やツリーシェルターの有効性、取り外した後の倒木の有無など熱心な質問を交えながら低コスト造林の技術を学びました。

南那珂地域は2500畝に及ぶ下刈りがかかえており、造林の低コスト化にどのように取り組むかが大きな課題となっています。今後も地域の林業事業体と連携し低コスト造林を進めていきます。



中田 隆昭さん

(鹿児島県屋久島在住)

平地の少ない屋久島の山岳部は、そのほとんどが国有地で森林となっています。海を背にして見上げる山、日々至近距離で森と向かい合う生活をしている島民にとって、都会に住まわれている方々とは、日ごろから森林との接し方に温度差があるような気がしています。

島の山を歩いていると時折「熊本営林局」と書かれたいにしへの看板や表記を目にすることがあります。なぜ、鹿児島ではないのか？ここから私の「森林とは？」が始まりました。その後、国内がいく

森林からいただく安堵感

つかのブロックに分けられていて「熊本営林局」が九州(沖縄を含む)を統括していることがわかりました。わたらの日本地図を広げ、国土的な広がりで見ると、屋久島は他と比べ極端に年間降水量が多く、台風常襲の島なので、「我が島は、有史以来、天然災害に打たれ強い森林。」ときめつけ、昭和の半ばまで隆盛を極めた屋久杉材利用の後には、景観の保全や観光的利活用が今後主となる国有林であろうと自覚しました。

ところが国内の他地域に目を向けると、治水治山が命題となる森林がここ近年なんと増加してきたことでしょうか。

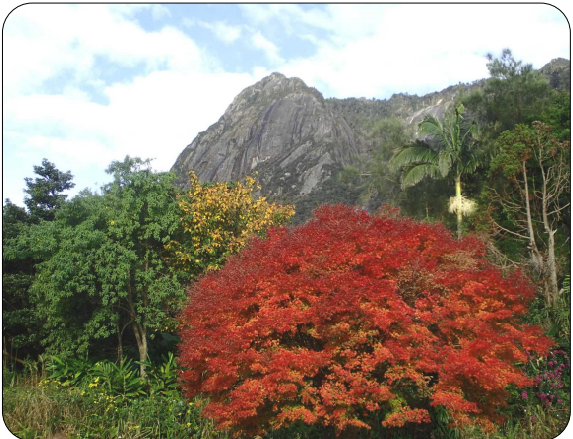
他山の石と、あぐらをかいていいのでしょうか。このところの地球規模異常気象は

所おかまいなしです。昨今、島内に生息するシカや猿の農業的被害が顕著ですが、もし鳥獣騒ぐ災害の前触れであるとすれば、その被害に悩まされている関係者だけの問題ではないということになります。国有林モニターに応募してからおかげさまで、送付されて来る多くの情報から、知らなかった側面にも触れられ、森林をとらえる目が少しずつ幅広くなっていくようでありたいものです。特に若年層に対する木や森林の様々な啓もう活動、ご当地スギを使っ

た公共建物の登場など、森林資源を様々な角度から未来へつないでいこうとするレベルに見えてきます。

極端な話ですが、地球上には砂漠という自然環境が存在します。どうでしょう、日本の森林が徐々に衰退し緑が目に見えて少なくなっていくとすれば、私たちは精神的にとんでもなく妙なことになるって、いくでしょうし、林業に携わる方々にとっ

てはさらに深刻な状況となり、様々なところに問題波及していきます。やっぱり「森林」は私たちにとってかけがえのないものなのですね。



屋久島の里、年が明けて紅葉見頃

遊々の森で小学生を対象に 樹木博士認定会を行う

【北薩森林管理署】2月26日にNPO法人「しいのきの森小床（ことこ）」と協定を締結する遊々の森で、針持小学校5・6年生9人を招いて樹木博士認定会とシイタケ駒打ち体験を行いました。

今回の樹木博士認定会では二之形一秋会長が整備した1000以上の遊歩道沿いの樹木を観察しながら事前学習を行い、散策後、認定試験に挑戦してもらいました。



樹木を説明する前田署長

最初に二之形会長から自然を通して学ぶことの楽しさを感じてほしいとの挨拶、前田三文北薩森林管理署長からは百点満点をとって初段を取るようとの挨拶があり、その後、小薄政弘

主任森林整備官がインストラクターとなって、おもしろおかしく樹木の特徴を紹介していきました。途中、これは試験に出さずと署長が声を掛けると、樹種名を忘れないよう必死に復唱する生徒達の微笑ましい姿も見られました。

認定試験の後はシイタケ原木への駒打ち体験を行いました。ドリルでの穴空けでは深さ加減が分からず最初は戸惑っていま



シナマンサクは樹木園の中央、藤棚手前の左側（東側）にあります。私が森林管理局に転勤になり、樹木園に興味を持ちだした頃、このマンサクを見て、自分の知っているマンサクと違うなと思いました。もう50年も前の話です。

早速調べてみると中国中部の原産と掲載しており、日本では庭木などに利用されている、シナマンサク、いわゆる園芸種でした。

花はマンサク同様ですが、花弁は黄金色で、花弁の付け根は紅色と普通のマンサクの花とは全然違う様子でした。

特徴は、マンサク類では葉が

したが、慣れてくると器用にドリルを使い、次々に駒打ちを行っていきました。

最後に二之形会長から「学校の近くに素晴らしい自然が残る山があるので、また来て学んでほしい」との挨拶があり、児童達は名残惜しそうに遊々の森を後にしました。

訂正して、おわびします

広報九州（N01764）「熊

136 シナマンサク（マンサク科）

一番大きく、しかも花が咲く頃まで落葉せずに葉がついていることです。ヤマコウバシヤクヌギの葉と同じく、光合成はしていませんが、葉には水が供給されており、次の葉が出てくるまで枯れずに落葉もしません。

葉の表面と葉柄には軟毛があり、裏面は灰色の綿毛があつて灰白色をしています。厳冬の2月から3月に香りのいい花を咲かせますが、花は枯葉に隠れるようにして咲いています。

森林インストラクター

安案 行雄



シナマンサクの花



シナマンサクの葉

本林業土木協会と共に国有林クリン活動を実施する（北薩森林管理署）の記事で「標高1667級の紫尾山」としていましたが、「標高1067級の紫尾山」の誤りでした。

人のうごき

退職
2月28日付発令
山元 俊博【佐賀署】



春の訪れを感じるようになった今日この頃である▼冬眠からの目覚める「くまさん」（まこと・みちお）の詩を思い出す。今冬は例年よりも気温が高く、厳しい寒さを感じる事が少なかった▼春は出会いと別れの季節と言われるが、花粉症の季節到来にドキドキ（戦々恐々）とする人も少なくないだろう▼今年の花粉飛散状況は、北海道を除き例年に比べて多くなるところがほとんどで、九州では2月下旬から3月上旬が花粉量ピークの予報。特に「晴れて」「暖かく」「風が強い」日は花粉の大量飛散に十分注意とのこと▼花粉飛散の予測は前年夏（6月～8月）の気象条件が大きく影響するといわれる。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれている▼昨年の業績が影響する年度末の業務処理、奮闘する人も少なくないのではないか▼「くまさん」のように水に映った自己を振り返る時間を大事にしたい。

（ふ）